

瀬戸内の多島美や瀬戸大橋を一望できるロケーション、塩の町・宇多津を今に伝える復元塩田、恋人の聖地のモニュメント、子どもたちの歓声が絶えない遊具広場……。かつて日本一の規模を誇った186秒の塩田跡の北西端に位置する道の駅「恋人の聖地 うたづ臨海公園」（香川県宇多津町浜一番丁）は、

恋人の聖地 うたづ臨海公園

（香川県宇多津町浜一番丁）



さまざまな魅力が詰まった複合施設だ。

広さは5・6秒。約2キロの緑地がある。1989年にオープンし、2009年に現在の姿にリニューアルした。

町制90周年事業として復元されたのが塩田。約900平方メートルの入り浜式塩田とともに、かやぶき屋根の釜屋を整備、晴天時には職人が引き込んだ海水を砂にまくなとして昔ながらの技法で天然塩を作っている。

天然塩は年間約2トンを生産。町特産品の塩キャラメルや塩あめなど

メモ 高松自動車道・坂出インターから車で約10分。JR宇多津駅から徒歩で約15分。駐車場は約250台。問い合わせは、うたづ海ホテル（電0877（49）0860）。

どに活用しており、昨年10月にオープンした近くの複合型商業施設の映画館では、この塩を使ったポップコーンを今月末までの期間限定で販売している。

塩田に隣接するうたづ海ホテルは、カフェやFMスタジオなどを備えた情報発信基地。特産品の販売コーナーのほか、塩について学べるタッチパネルや映像上映もあり、復元塩田と併せて小中学生の体験学習の場にもなっている。

恋人の聖地に認定されたのは06年。県内屈指の散歩コースとして親しまれている。

塩の町・宇多津を今に伝える復元塩田。昔ながらの技法で塩が作られている。香川県宇多津町浜一番丁



公園を運営・管理する町振興財団の井元俊夫事業部長（68）は「こ

入り浜式塩田を復元

こは主要幹線道沿いにない道の駅。立ち寄ってもらえるようにいろいろ仕掛けて、にぎわいづくりにつなげたい」と意気込んでいます。（四国新聞）

毎週金曜日に掲載